

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスの取れた人材、将来において社会で自立できる人材、社会に貢献できる人材を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

- 1 すべての生徒の学力を3年間でより一層向上させ、進路希望を実現する学校
- 2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り、「行って良かった」と思える学校
- 3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校
- 4 学校教育目標の達成に向け、教職員が一丸となって日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の頭（学力）、体（体力）、心（精神）を鍛える。「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

2 中期的目標

1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る。

(1) 教志コース（教員養成系コース）を充実、発展させる。

ア 1年生を対象にしたコースのガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを正しく選択できるようにきめ細かい指導を確立する。

イ 2年生の設置科目「教志入門」の内容を充実させるとともに、効果的な運営方法を確立する。

ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題等の作成やリーダー実践を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。

エ 3年生の「授業研究」の充実を図る。

※ 教志コース生の進路実現の一環として、大阪教育大学特別推薦枠の受験及び合格をめざす。

(2) 3年間の計画的な取り組みを通して、学力向上・進路目標の実現を図る。

ア Advance 講座・Basic 講座や講演会等の進路関連行事を充実させ、入学時の進路目標を変更させることなく、実現に向けて取り組ませる。

イ 令和元年度学校経営推進費[事業名：坂の上の学校から坂のふもとの家庭まで]により購入したWindowsタブレット及び普通教室(28台)、特別教室、体育館、職員室(全32か所)に設置した無線LAN(Wi-Fi)のアクセスポイントの活用とGIGAスクール構想により生徒が保持するノートPCについての効果的な使用方法の研究に努め、ICT化を深める。授業外のノートPC活用を促進し、学習時間を増加させることで学力の向上につなげる。

ウ ICTを積極的に活用した授業改善を推し進め、「見てわかる授業」「板書時間の削減」「机間巡視による個別指導の増加」「対話的授業」に取り組むことで授業の効率化を図り思考力・表現力の伸長を図る。

※ 学校教育自己診断(生徒)において、平日の授業以外の学習時間を令和5年度は1年生80分以上、2年生90分以上、3年生260分以上とする。

(H30:52分、56分、170分、R1:54分、56分、171分、R2:1年59分、2年62分、3年174分)

※ 学校教育自己診断(教員)において、「ICTを活用した授業により、授業力の向上につなげた。」を令和5年度は80%以上とする。

(H30:61%、R1:64%、R2:75%)

※ 外部学力調査における生徒(3年生)のGTZ平均値(国数英)をB2ランクにする。

※ 大学進学において、関関同立、国公立大学の合格総数を令和5年度はそれぞれ、150人、10人以上にする。

(H30:78人、5人、R1:89人、7人、R2:153人、8人)

2 学校生活—規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることのできる環境を作る。

(1) 規範意識の高揚を図る。：遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー 等

(2) 安全・安心で意欲的な学校生活を推進する。：あいさつ指導、清掃の徹底、環境(学習・生活)整備、高いレベルでの文武両道(学校行事・部活動の推進)、障がい者差別の解消、他者を尊重する心の育成、いじめを起こさせない環境作り 等

(3) 学校行事等の取り組みで生徒の主体化を図る。

※ 学校教育自己診断(生徒)において、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答を85%以上とする。(H30:80%、R1:81%、R2:86%)

3 学校運営—プロとしての教員集団を組織化し、地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。

(1) 実務提要管理—電子データ化された実務提要(学校内規)の管理及び見直し体制を構築する。

(2) ICTの積極的活用—校務処理システムと校内LANを最大限活用して生徒情報総合システムを構築し、校務運営の効率化を図る。

(3) 新任・若手教員に地元の小中学校などでの研修や授業参観を通して、力量の向上を図る。

(4) 教志コースの充実、新教育課程に関する研修、教科教育力の向上などを視野に入れた施設設備・教材教具の改善と充実を図る。

(5) 地域連携の取組の定着・推進—地域行事や八中校区地域教育協議会への参画、北高アカデミアの実施等を通して、一層地域からの信頼を高める。

※ それぞれの取組を継続するとともに、各取組の内容の充実を図る。

※ 北高アカデミアの参加者満足度について、参加者アンケート95%以上を維持する。(H30:98%、R1:98%、R2:コロナ禍で未実施)

4 広報—常に情報発信に努め、保護者・地域から信頼された、開かれた学校づくりを推進する。

(1) 広報活動の強化—学校説明会・ホームページ・メールマガジン・校長通信・バナー広告掲載を通して、本校の取組及び連携機関の周知を図る。

(2) アドミッションポリシーの周知を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力・進学保障	(1) 教志コースの充実 (2) 生徒の学力向上と進路目標の実現	(1) ア ①講師との入念な打ち合わせ、② 実地実習の事前指導の充実、③連携大学へのキャンパス訪問 イ 大阪教育大学特別推薦枠での受験を促進する。 (2) ア オンラインを含め ICT を活用した授業の充実を図り、学力とりわけ思考力、表現力の向上につなげる。その為の校内研修を実施する。 イ 授業の相互見学制度(パティシエシステム)・教科ごとに ICT を活用した研究授業を行い、教科教育力の向上を図る。 ウ 進路目標の実現を常に意識させ、学力向上・進路目標実現に向けた取組(下記①～⑦等)について、効果的な実践を図る。また、授業以外の学習時間の内訳(AB 講座、自学、塾等)を検証し、AB 講座、自学の割合が高まるようにする。 ① 定期考査・学力生活実態調査・模試 ② 各種検定(漢検・数検・英検等) ③ Advance 講座・Basic 講座 ④ 懇談(生徒・保護者・三者・クラス・学年) ⑤ 科目・コース選択説明会・進路別説明会・大学見学 ⑥ 担任会・拡大学年会・教育相談委員会 ⑦ 追認関係・判定会議 エ 読書活動推進のため、新入生オリエンテーション時に図書館利用方法の周知。映像化作品の導入。図書委員による「図書だより」の発行。PTA からの図書充実費の援助。	(1) ア コース2年生アンケートの取組満足度 90%以上を維持する。[93%] イ 大阪教育大学特別推薦枠での受験者 2 名以上。 (2) ア 学校教育自己診断(生徒)における ICT 機器の活用について 90%以上を維持する。[97%] イ 相互見学の 100%実施、研究公開授業 1 回以上実施。授業アンケートの質問 89 の肯定的回答率 80%以上を維持する。[87%] ウ * 学校教育自己診断(生徒)における平日の授業以外の学習時間を 1 年生 55 分以上、2 年生 60 分以上、3 年生 180 分以上にする。[1 年 59 分、2 年 62 分、3 年 174 分] * 進学実績として関関同立、国公立大学への合格総数をそれぞれ、120 人、7 人以上を維持する。[153 人、8 人] * 各種検定への延べ参加率 30%以上を維持する。[31%] エ 図書館利用者数(書籍貸出数)を 700 以上とする。[568 冊]	
2 学校生活	(1) 規範意識の高揚 (2) 安全・安心で意欲的な学校生活の推進	(1) ア 日常の指導はもちろん、身だしなみマナー向上週間を導入し、遅刻した生徒に対する早朝登校指導の徹底や、常習者への丁寧で粘り強い個別指導。頭髪、装飾品など違反生徒への随時指導を全教員で図る。 イ 登下校時の安全指導の継続、警察及び安全協会と連携し安全講習会を開催する。 ウ 携帯使用のマナー指導及び啓発活動を継続する。 エ 部活動・学校行事を主体的に取り組む工夫をする。 (2) ア 清掃活動の徹底及び安全点検を定期的に行うと共に施設・設備の改善を図ることで学習環境を整える。 イ 生徒が率先して挨拶ができるよう、授業の始業時終業時のみならず、あらゆる機会において教職員が率先垂範して積極的に挨拶を励行する。 ウ 献血活動を啓発する。(文化祭時のビデオ活用) エ 部活動の加入率及び満足度を高める工夫を行う。 オ 教職員の救急講習会に全員が参加する。 カ 新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら教育活動を行う。PCR 検査受検等緊急連絡用のメールアドレスの管理及び生徒・保護者への周知を徹底する。	(1) ア 1 日の平均遅刻者数を昨年度以下にする。[5.8 人] イ 学校教育自己診断(生徒)において、自転車に関する運転マナー意識の向上 90%以上を維持する。[95%] 自転車事故による保健室利用数を昨年度以下にする。[54 件] ウ 指導件数を前年度以下にする。[53 件] エ 学校教育自己診断(生徒)において、部活動・学校行事が工夫されていると思う: 85%以上を維持する。[部活動 88%、学校行事 94%] 学校行事を主体的に取り組んだ: 85%以上を維持する。[91%] (2) ア～エは、学校教育自己診断(生徒)において、 ア 学習環境の満足度: 80%以上を維持する。[86%] 施設・設備の改善認識: 以上 80%を維持する。[80%] 積極的に清掃活動や環境整備に取り組んだ: 80%以上を維持する。[86%] イ 挨拶をしている生徒: 80%以上を維持する。[82%] ウ 献血意義の認識: 90%以上にする。[88%] エ 加入率及び満足度: 80%以上にする。[82%、79%] オ 職員救急講習参加率 90%以上を維持する。[98%オンライン形式] カ メールアドレス周知文書を 3 回以上配付する。	
3 学校運営	(1) 学校力の向上 (2) 教師力の向上 (3) 地域連携	(1) ア 実務提要进行を効果的に活用する。 イ 適切な改善・引き継ぎ方法を策定する。 ウ 校務処理システムを活用し、校務運営の効率化を図る。 エ ICT 機器を活用して、授業内容の効率化及びデータの共有化を積極的に推進する。 オ 一斉退庁日及び部活動方針を周知する。分掌ごとのワークの見直しを行い、教員の勤務時間の削減及び効率化を図る。 カ 生徒に最終下校時刻を遵守させ、教員の勤務時間の削減を図る。 (2) ア 若手・新任教員に対する校内研修を充実させる。 イ 支援教育に関する教職員研修を実施する。 (3) ア 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、より一層地域からの信頼を高める。	(1) ア～エは、学校教育自己診断(教員)において、 ア 利用割合: 昨年度以上にする。[43%] イ 適切な改善・引き継ぎの実施: 80%以上を維持する。[83%] ウ 校務処理システムの活用: 90%以上にする。[87%] エ ICT 機器の活用による授業内容の効率化 70%以上、データの共有化 60%以上にする。 オ 教員一人当たりの月平均時間外勤務時間を昨年度以下にする。[34 時間 54 分] カ 教員の一人退庁日の 19 時以降勤務者を昨年度以下にする。[389 人] (2) ア 学校教育自己診断(教員)において、新任・若手教員の満足度を昨年度以上にする[75%] イ 教職員研修参加率を 80%以上にする。[78%] (3) ア 北高アカデメイア参加者アンケートにおける満足度を 95%以上にする。[未]	
4 広報	(1) 広報活動の強化	(1) ア 次の取組を通し、本校の教育内容及び連携機関の周知を図る。 学校説明会 ホームページの更新 メールマガジンの定期的配信 校長通信の定期的発信 バナー広告の契約数維持 イ アドミッションポリシーを周知する。	(1) ア 学校説明会 参加者アンケート満足度 90%以上を維持。[96%] ホームページ更新 30 回以上を維持する。[37 回] アクセス数 6 万回以上を維持する。[96082 回] メールマガジン 40 回以上の配信を維持する。[100 回] 校長通信 80 回以上の発信を維持する。[123 回] バナー広告 契約数 2 件を維持する。[2 件] イ 学校教育自己診断(生徒)において、読んだことがあるを 80%以上にする。[79%]	